

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部生涯学習課

教育部長 岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評 価	評価内容	方向性	内容
29-002	社会教育審議会費	なし	B	社会教育審議会を4回開催し、社会教育に関する協議や情報共有を行い、「半田市民に新美南吉記念館を訪れてもらう方策」について、教育委員会に提言した。社会教育委員が愛知県社会教育委員連絡協議会が主催する研修会等に参加し、その結果を委員間で共有し資質向上を図ることができた。	改善 推進	社会教育を幅広く捉え、既成の概念にとらわれることなく、誰もがいつでも学ぶことができる環境を整え、教育が人づくり、まちづくりにつながるような提言をしていく。
29-004	美術展開催事業	なし	C	日頃の文化芸術創作活動の発表の場として、また市民が優れた芸術作品に身近な場所で鑑賞できる場として美術展を開催し、文化芸術の振興に寄与することができた。来場者数に関しては例年を大幅に上回ることができたのに対し、今年度は出品点数が大幅に目標値を下回っている為、引き続き来場者、出品者へのアプローチ方法が課題である。	改善 推進	3年前から実施している会期中の体験講座では、気軽に簡単な芸術制作に触れられる良い機会であるのに対し、外部に対する周知が十分でない。美術展来場者のメインターゲットである年配層へのPR方法につき、今一度工夫を図りながら、事業を継続していく。また、新たな層に対し出品案内のアプローチをすることで、出品点数の増加を試みながら事業を継続していく。
29-005	音楽文化振興事業	あり	B	雁宿ホールでのコンサートや講座を始め、市内の各所でコンサートや講座を開催したことで、多くの市民に質の高い音楽を提供することができた。保育園・幼稚園の演奏会や小学校のアウトリーチは教育的効果も高く、満足度も高い。また、中学校のワークショップ事業は中学校吹奏楽部の演奏技術が向上し、コンクールで県大会出場校が出るなど成果が出始めている。コンサートを始めとする事業の認知度・満足度ともに高い数値ではあるが、コンサート等への集客方法が課題である。	改善 推進	前年度からの課題に対応するため、実施事業の時期や内容、その有効性等をアンケート等で確認しながらより良い事業の充実を図るだけでなく、これまでに音楽を提供できていない場所や市民に向けた事業を実施していく。また、音楽活動団体等や庁内他課との連携を深めながら事業を進めていく。
29-007	成人式運営事業	なし	C	新成人入場時での、チラシ配布や啓発活動、ホール内への誘導がスムーズにいかなかった影響から、開始時刻にホール内での着席が間に合わない新成人が複数発生したことが今年度も課題になった。その反面、飲酒の自粛など実行委員から、新成人としての心構えを呼びかけることで、式典およびアトラクションでの進行を妨げるような言動はなく、スムーズに終えることができた。	改善 推進	今後も新成人による実行委員会が主体的に企画運営を行う中で、例年の課題等を共有し、解決へと取り組みながら、第1部は式典、第2部はアトラクションの形式により、開催を継続する。また、成人年齢引き下げに伴い、今一度開催意義を見直し、成人式のあり方を検討する。
29-008	生涯学習推進事業	なし	B	教えたい人が教える環境整備がすすみ、講座開講経験者だけでなく講座開講の少経験講師の企画も増え、開設するなど講座数は増加している。そのため、学びたい市民に学びの機会を提供できている。市民企画講座の開講者は継続の方も増えてきており、更に新規分野の講座を開講していくことで、市民の学びの場が広がるようにしたい。	改善 推進	ゲストティーチャーの登録を整理しつつ、講座開設分野の拡大を図る。また、市民のニーズに沿った学びを提供し、新規受講者の増加を目指す。生涯学習講座全体を見直し、事業を整理することで、幅広いニーズや年代にあった講座開設を目指す。また、市民活動団体の学びの場を確保するため、開設講座を整理し、市民が積極的に学び続けようとする環境を整備する。
29-010	公民館管理運営事業	なし	B	ふれあい事業利用者・公民館稼働率は目標を下回る結果となったが、公民館の利用件数は増加しており、公民館の存在意義はあると考えられるものの、より一層の参加者増加ためには、毎年同じ事業だけでなく魅力あるふれあい事業を新たに企画していくことが課題である。	改善 推進	地域住民が公民館に行きたいと思える身近な存在となる公民館づくりを行い、参加したいと思えるような企画・事業を開催して公民館が地域住民から身近な存在となるようPRや広報を行う。
29-011	明るい青少年都市推進事業	なし	B	明るい青少年都市推進本部が他の行政機関や家庭・学校・地域と連携して、街頭啓発活動を実施した。また少年を守る会を始めとした青少年健全育成団体の活動を支援するため助成を行い、地域や団体の特性に応じた事業実施につなげた。	改善 推進	引き続き家庭・学校・地域のほか警察や関係機関と連携し、青少年の非行や犯罪を未然に防ぐ。社会情勢の変化による青少年の行動パターンに対応した施策を講じる。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評 価	評価内容	方向性	内容
29-012	少年愛護セン ター運営事業	なし	B	少年愛護センターの少年指導員2名及び市内5地区少年を守る会から推薦された少年補導員138名により巡視活動を実施した。こども110番の家の登録・廃止や看板の更新を随時実施し、周知にも努めた。	統廃 合等	明るい青少年都市推進事業に統合する。現在の事業は継続して実施するとともに、事業統合した利点を生かした事業展開を図る。
29-013	乙川交流セン ターニコパル管 理運営事業	なし	B	新規の利用団体があったため、施設の利用数が増加した。昨年度は、多目的ホールの大規模天井改修工事があったため、利用者数が減少したが、施設をオープンしてから利用者数は増加傾向にある。また、多目的ホールの稼働率が49%となり、目標値を上回ることができた。今後も継続して利用促進に努める必要がある。	改善 推進	今後も地域住民の生涯学習の活動拠点及び住民相互の交流の場とするため、引き続き乙川スポーツクラブと地元区長会と連携した共催事業を行うことにより、市民の利用の促進を図る。また施設利用者が安全、快適に利用できるように管理運営に努める。
29-1015	空の科学館・体 育館管理運営事 業	なし	C	プラネタリウム投影、観望会、イベント、各種教室、企画展等星や宇宙への興味や学習意欲を高める魅力ある事業を実施し、来館者を増やすことができた。また講座受講者が知識を高めて講師となる仕組みをつくり、生涯学習推進を図った。安全で快適に利用できるよう施設の適正な管理運営に努めた。	改善 推進	指定管理者制度のメリットを活かし、サービス向上と効率的運営に向け事業者と調整する。また、施設の設置目的に合った事業を実施できるよう協議を重ねる中で、来館者アンケート等により利用者のニーズを把握するとともに、市民が興味を持つイベントを企画する。
29-017	福祉文化会館管 理運営事業	なし	C	10月から2月まで大ホール及び講堂の空調設備更新工事のため利用を中止したことにより、文化会館及び中央公民館の利用者数が減少した。施設の老朽化により、今後も施設の大規模な修繕が必要であるが、利用者に不便をかけないように工期短縮等の配慮することが必要である。	改善 推進	半田市福祉文化会館(雁宿ホール)を文化の発信拠点として、積極的に活用する。このために、利用者が安心・安全・快適に利用できるように施設を整備するとともに、文化芸術の振興のため、半田市として特色のある事業を展開する。
29-019	福祉文化会館自 主文化事業	あり	B	7月27日に八代目中村芝翫翫らが出演する松竹大歌舞伎(人情噺文七元結・棒しばり)を2部(昼・夜)で開催した。事業費に対して、チケット販売等収入が上回り黒字になった。また、終演後のアンケートでは、ほぼ100%のお客様が満足していただいた。 本年度は、(公社)全国公立文化施設協会の支援を受けて、同協会が主催する松竹大歌舞伎を誘致することができた。しかし、文化会館が主催して、このように人気があり、採算がとれる自主文化事業を開催することは困難である。	終了	文化会館が主催する自主文化事業は廃止するが、雁宿ホール(大ホール)を文化の発信拠点として、積極的に活用する。令和元年度は文化振興事業において、愛知芸術劇場との共催による「レクチャー&オペラ上演」やファミリープログラム、市民参加型の公演などを計画してる。また、平成30年度に実施した「野村万作・萬籟狂言の世界」のようにプロモーターとの共催事業も取り組む。 このため、生涯学習課の職員が公演等を鑑賞する機会を設け、職員が積極的に文化振興を学べる体制を整える。そして、職員が見聞を広げることによって、半田市として特色のある事業展開ができるようになる。
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
B	事業全般について、目的に沿った事業実施ができた。 生涯学習推進事業では、教えたい人が教え、学びたい人が学ぶことができる環境整備を進めているが、さらに充実させ、市民の学びをサポートしていく。福祉文化会館管理運営事業では、計画的に施設改修を進めており、一定期間の利用中止もあったが大ホール等の空調を更新することができ、今後の快適な施設利用につながった。福祉文化会館自主文化事業においては、2回公演ともに多くの市民に鑑賞いただき収支のバランスをとることができた。今後は民間の協力が得られる公演は民間に主導してもらい、市としては幅広い分野の文化芸術を幅広い市民に提供できるようにするため、職員の見聞を広め資質向上に努めていく。					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	市民企画の講座も増え、教えたい人が教え、学びたい人が学ぶ仕組みを充実してきているが、さらに誰もがいつでも主体的に学ぶことができる環境を整えていくことで生涯学習の推進を図っていく。 自主文化事業を廃止するが、これまでよりも多様な芸術作品を誘致するなど、雁宿ホールを文化芸術の発信拠点として最大限活用できるよう努める。 福祉文化会館管理運営事業においては、施設の老朽化やニーズの変化に伴う施設改修の必要性や優先度を熟慮した上で効率的に進める。 各施設においては、適切な管理運営がなされているが、今後も引き続き施設の設置目的に沿った利用がされ、多くの市民に活用していただけるよう工夫していく必要がある。					